



# さわやか トカラ情報

〒892-0822  
鹿児島市泉町13番13号  
TEL099-227-9771

発行  
十島村教育委員会

## 【地震が頻発しました。安心・安全の担保を!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

例年ですと、梅雨の大雨や台風等を心配する時期ですが、今年は6月21日から発生した地震が、悪石島と小宝島を中心に千回以上継続して島民の方々が不安な日々を過ごされていることと思います。一日も早く地震が収まり、安心してゆっくり眠れることを祈っております。

## ○ 前期課程の集合学習と、後期課程の修学旅行を実施

前期課程の連集合学習を6月11日(水)から14日(土)までの3泊4日で、鹿児島市の鹿児島市立少年自然の家で実施しました。村内の5・6年生27人が引率の先生方10人と行動を共にし、集団生活を送りました。1日目は夕方鹿児島港に着き、ターミナルの待合室で結団式を行いました。その後バスで移動し、ふぁみり庵はいから亭で夕食をとり、そのまま鹿児島市の少年自然の家に移動し、入所式を行いました。2日目の朝は、一緒に宿泊している西紫原小学校のみなさんと合同で朝の集いを実施しました。出会いの会のあと、租税教室やウォークラリーを行い、夜にはキャンプファイヤーも実施することができました。3日目はキャンプ場に移動して、野外炊飯活動を協力してカレー作りをしました。13日(金)にフェリーが悪天候の影響で出港しないことになり、急遽自然の家に延泊になりました。14日(土)の4日目はニュースポーツのモルックやペンタンクをして楽しみました。午後からはプラホビー作りを体験しました。その後、自然の家を退所して、港に向かいました。港の待合室で解団式を行い、9時にフェリーに乗り込んで11時に鹿児島島を出港しました。子どもたちは他の島の児童と友達になれたこと、たくさんの経験を一緒にしたことが嬉しかったです。

後期課程の修学旅行は時化(しけ)の影響で当初予定していた日程を変更して、6月29日(日)から7月3日(木)までの4泊5日を実施しました。生徒は7年生から9年生までの49人と、引率の先生方9人で九州の5つの県をまたいで様々な体験をしてきました。29日(日)に各島を出発し、鹿児島港に到着後、ホテルに移動して結団式の後、夕食とお風呂を済ませて就寝しました。2日目の30日に、バスで長崎県の平和祈念公園に向き、平和学習を行い、各学園で折ってきた「千羽鶴」を捧げ、原爆資料館の見学を通して、平和の尊さ、戦争の悲惨さについて学びました。被爆体験者から講話も聞いて平和について深く学ぶことができました。3日目の7月1日(火)は、佐賀県で、有田焼の下絵体験を行い、その後、福岡の「キツザニア」という施設で職業体験を行いました。たくさんの職業体験ができたことで、これからのキャリア教育にとっても役だったようです。夜はホテルに吉本お笑い芸人を招いて非常に盛り上がり、楽しみました。4日目の7月2日(水)は、熊本県の「グリーンランド」で、様々なアトラクションをグループごとに楽しみ、お昼の時間も含め、交流を深めることができました。そのまま鹿児島島にバス移動して、ホテルで解団式の後、夕食と入浴を済ませてフェリーに乗り込みました。7月3日(木)に、各島ごとに下船して無事に修学旅行を終えることができました。

今回は、荒天等の影響もなく、フェリーも順調に運行し、予定通りの日程で修学旅行を終えることができました。後期課程生にとってかけがえのない経験や体験ができたことが何よりでした。

日頃はテレビ会議等で間接的には話す機会はありませんでしたが、直接会って同じ釜の飯を食べた繋がり、より絆を深めるまたとない機会になったことと思います。これを1つの契機に、更に7つの学園の生徒が活発に、意見交換等しながら、より高みを目指してくれることを期待しています。

送り出していたご家族、実親の方々や寮監・里親様、そして島民の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 十島村で学ぶ

### 【思い出に残った宿泊学習】

諏訪之瀬島学園5年 脇田 文太

ぼくは、今年で5年生になった。5年生で一番楽しみにしていたことは、宿泊学習だった。ぼくは、島にいるからか、すごく楽しみだった。フェリーに乗って、無事、予定通りに港に着くと、バスが待っていた。バスで行ったのは、はいから亭で料理がすごく豪華だった。メニューは大盛ご飯、特大サイズのからあげ、うどん、茶わんむしと、どれもおいしかった。

少年自然の家に着くと、入所式があり、規則正しい生活が始まった。朝起きると、ふとんのたたみ方がむずかしくて、友達に手伝ってもらった。朝の集いでは、いっしょに来ていた西紫原小学校もいてみんなでラジオ体操をした。朝の集いのあと、ずっと不安だったことが頭からはなれなかった。それは、「朝食で苦手なものがでたらどうしよう・・・」ということだ。しかし、自然の家のご飯はとても美味しく、安心してたくさんおかわりをした。思ったよりも職員さんはやさしくて、ぼくたちにたくさん話しかけてくれてうれしかった。ぼくにとって、むずかしかったことは、時間によゆうをもって行動することだ。時間によゆうがないと忘れ物をするので、気をつけるようになった。

3泊4日を過ごしてみて、特に心に残ったことが3つある。1つ目が、野外すい飯だ。みんなと協力してカレーライスを作るのはすごく楽しかった。世界のカレーだと思った。2つ目は、プラホビー作りだ。プラ板に絵をかくのは意外にむずかしかったが、ぼくだけのキーホルダーが出来てうれしかった。3つ目は、悪石島学園の保健の先生とのオセロだ。ぼくは、オセロなどのボードゲームは得意で自信があったのだが、保健の先生はぼくよりも強くて負けてしまった。本当に楽しい思い出がいっぱいできた。ぼくは、この少年自然の家で学んだことをこれからの生活で活かし、いっしょに活動した友達との3泊4日の思い出を一生の宝物にしていきたい。

令和7年5月13日 南日本新聞「若い目特集」

## おいしさアップ

諏訪之瀬島学園 4年 濱田 明奈

大名タケノコとりに、学園のみんなでお出かけしました。いつもの、ひみつの竹林です。

タケノコは、たくさんあってとり放題でした。タケノコを見つけると、根元を片手でグリグリしてとります。30分ぐらいで、少し太めがおいしいです。私は竹林のひみつを知っていたのでたくさんとることができました。

とったタケノコは、学園に持って帰りました。そして、給食用とすぐに私たちが食べるものにわけました。

私たちが食べるのは皮がついたまま、すみの上の網にのせました。焼くのは、先生や上級生のお仕事です。

10分ぐらいで、ゆげやしが飛び出してきました。アツアツの皮をむいて、しょうゆとマヨネーズにつけて口に入れました。6本も食べてしまいました。

自分でとったタケノコを食べるのは、おいしさのレベルがもっと上がったような気がします。



たんぽぽ  
たんぽぽ見つけた  
きれいなたんぽぽ  
おどろいたたんぽぽ  
とっても大きい  
きょうかしの  
絵と同じだった  
べんきょうをして  
知ったこといっしょ  
あしたもみたいな



たんぽぽ  
平島学園 二年  
内とう りょう一

子供のうた  
(六月十四日  
南日本新聞掲載)

## かごしま子どもSNS相談・通報窓口

学校生活での悩み、進学や恋愛、家庭のことなど、誰にも言えない悩みはありませんか？ 自分がいじめられていて苦しい思いをしていませんか？ 仲間はずれにされて心配な友達・クラスメイトはいませんか？ この窓口では、そんな悩みを匿名で相談したり、学校へ連絡したりできます。

TEL 0120-0-78310

### 相談



受付期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日  
受付時間：17:00～21:30

### 通報



受付期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日  
受付時間：24時間

## 【平島学園からのメッセージ】 平島学園 教諭 橋口 朋寛

平島学園に赴任して3年目を迎えています。トカラ科を担当することもあって筍採りや穴釣り、島豆腐づくりに島内仕事体験と平島の自然や島民の方々とのふれあいを通じて「ここは刻(とき)を忘れさせる島」とポロシャツに書かれてある文字通りの学園生活を送ることができています。水泳学習が海というのも貴重な経験です。水中メガネから見えてくるカラフルな魚の動きに「癒やし」と「そこにも小さな命が動いていたか」と気付かされてうれしくなります。

前期1年生から後期9年生までが一緒に過ごす義務教育学校での毎日というのも私の教員生活を豊かなものにしてきています。4月当初は、わがままだったりくずったり、友だちとトラブルしたりして私たちに困らせていた児童・生徒が、学年が終わる頃には自他のことが少しずつ見えてきて、思いやりのある言葉で伝えられるようになるから不思議です。子どもの成長は早い。そして、子どもたち自身でつくりあげていく世界(和)というものが大人の私に大事なことを気付かせてくれますし、教えてくれますから子どもって本当にすごいと思います。小・中学生の時期に親元を離れて生活できるってすごいです。

種子島、奄美大島、そして、三回目の離島経験となったこの平島。「島の教育は、教育の原点である。」この深く重みのある言葉の意味を追い求めながら過ごしています。その答えが見えてくるような貴重な経験をこの島では数多く積むことができていると実感しています。